

都市部におけるストック効果を高めるアクセス道路整備による活力ある地域の形成（重点）

群馬県の現状

群馬県の工場立地件数は平成28年時点で全国3位となっており、近年、全国上位に位置している。将来にわたる持続的な成長のため、産業団地から高速道路IC等の交通拠点へのアクセス道路の整備等により物流の効率化を図っているが、依然として交通渋滞の発生箇所や幅員狭小の危険箇所等が存在している。

また、県内の観光入込客数は平成28年までの5年間で約500万人（約8%）増加と、増加傾向にあるが、パーソントリップ調査の結果等から、多くの観光客の立ち寄る観光施設が1箇所のみとなっている。

課題

物流の効率化や観光振興のため、高速道路ICや広域幹線道路等の交通拠点と、産業団地や鉄道駅等を結ぶアクセス道路の整備が必要である。

目的

都市部において、ストック効果を高めるための産業団地、鉄道駅等へのアクセス道路整備を実施することにより、活力ある地域づくりに寄与する。

整備効果の検証

A01-004（都）本町線(18-A5)

首都圏からの「まちの玄関口」となっている東武鉄道「新桐生駅」のアクセス道路において、現道拡幅や歩道、自転車通行帯の設置を行い交通拠点へのアクセス性や通行者の安全性を向上させた。

また、駅前広場の拡幅により、歩道整備と、ロータリー内の通行区分を整理し、駅利用者の利便性や安全性を向上させた。

加えて、住民参画としてワークショップを行いつつ、駅舎や桐生市の歴史的な街並みと調和した歩道舗装や照明、植栽等を計画、整備することで景観に配慮したほか、電線共同溝による無電柱化を実施し、災害時の電柱倒壊による道路寸断を防止した。

事業の指標と成果報告

指標：交通拠点からアクセス機能が向上した産業団地、鉄道駅等の箇所数を増加させる。

現況:0箇所(H29) ⇒ 最終目標:5箇所(R3)
⇒ 最終実績:4箇所(R3)

- 本町線、北部環状線、赤岩新福寺線の完成や、前橋長瀬線の部分完成により、産業団地や鉄道駅等へのアクセス機能が向上した。

本町線	： 東武鉄道 新桐生駅
北部環状線	： 藤岡北部工業団地及び藤岡IC西産業団地
赤岩新福寺線	： 明和大輪東産業団地
前橋長瀬線	： 高崎スマートIC産業団地

今後の方針

- 事業継続中の前橋長瀬線及び駅周辺のまちづくりを含めた検討等に時間を要し、計画期間内に事業着手に至らなかった群馬総社駅西口線については、引き続き、社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。

都市部におけるストック効果を高めるアクセス道路整備による活力ある地域の形成（重点）

整備効果事例

事例①（都）本町線

■位置図

事業箇所：桐生市広沢町



■整備効果

整備前



整備後



新桐生駅のアクセス道路、駅前広場が未整備であり、鉄道とバスや徒歩、自転車等の接続に課題があった。

また、各交通の通行区分が整理されておらず、危険な状態であった。

アクセス道路の拡幅及び駅前広場の整備により、駅利用者の利便性や安全性が向上した。

また、駅舎や地域の街並みと調和した道路・広場空間が創出された。

事例②（都）北部環状線

■位置図

事業箇所：藤岡市中栗須



■整備効果

整備後



県道 前橋長瀬線と県道 藤岡本庄線を結ぶ道路を新設したことで、藤岡市街地から藤岡北部工業団地及び藤岡インターチェンジ西産業団地へのアクセス性を向上させ物流の効率化に寄与するとともに、市街地の交通を迂回させ周辺道路の交通混雑を解消に寄与した。